

歴史的建築物におけるコンバージョンの傾向分析

建築都市デザイン学科 2280120081-1 藤村 朱音
(指導教員 及川 清昭)

1. はじめに

この世界において、すべての建築物はやがて劣化もしくは使われなくなる。近年の傾向ではそれを破壊し新たな建築物を建てる。しかしながら、単にその価値を鑑みずに破壊することは無駄が多いだろう。

破壊の代替案としてのコンバージョンは歴史的保存と破壊の歩み寄りであり、コンバージョンは環境、経済、そして社会文化的価値に対してより有益である。

コンバージョンに関する多くの研究は、炭素排出量や資源等の浪費、また進行中の計画に関する一般的な「破壊と建築」という慣習との比較について、といった技術的側面に焦点をあてている。しかし、その計画が完了した後の周囲の環境に対する影響や効果に焦点を当てたものは非常に少ない。

2. 研究概要

本研究では、合計 257 のコンバージョンの事例のうち 194 の事例を『世界のコンバージョン建物 I・II¹⁾』から引用した。しかしながら、このリストに含まれるいくつかの建築名は本に書かれているものとは必ずしも同じではない場合がある。リストにおいて、いくつかはすでに変わっているなど、複数のプロジェクトと実際の状態とは無関係なデータから成っている。それ故に、研究リストに入れる前に、本に載っているそれぞれの建物について更なる調査を行った。

これをもとに建物を機能ごとに分類し、分析を行う。

3. 分析と考察

本研究では、クラスター分析と MDS から機能の変化の傾向を視覚的に考察し、明らかにしていく。

3.1 調査方法

この研究は 3 つの段階に分かれる。

- ① コンバージョンの事例をリストにし、収集する。
- ② 機能の傾向分析
- ③ 機能のカテゴリーの近似性の分析

3.2 機能の分類

この分析を行うために下記のようにそれぞれの建物を機能ごとに割り当てる。

Residential	家、アパート、マンション、別荘 など
Commercial	店舗、ホテル、ブティック など
Industrial	工場、製粉場、発電所 など
Educational	学校、劇場、博物館 など
Entertainment	娯楽施設、体育館 など
Religious	教会、モスク、修道院 など
Government	官庁、市役所 など
Military	バラック、砦 など
Agricultural	納屋 など
Transportation	港、ターミナル、ヤード など
Infrastructure	厩舎、ダクト、サブステーションなど
Public Service	病院、浴場、公園 など

これらの 12 個のカテゴリーによって、すべての建物の前と後の機能をそれらの機能カテゴリーに割り当て、分析する準備をしている。また、一つの建物につき、複数の機能を有している場合に注意する必要がある。したがって、いくつかの建物が複数のカテゴリーの下に割り当てられることもある。

3.3 コンバージョンの傾向分析

点数化の結果は下記の図 3.1.2 のとおりである。



図 3.1.2

¹⁾小李克弘 他(2008) 世界のコンバージョン I

小李克弘 他(2013) 世界のコンバージョン II

図 3.1.2 から、257 の建築物を通して、ある機能から別の機能へのコンバージョンの傾向として、20 点以上・10—20 点・5—10 点・それ以下という 4 つの場合に分けられることが読み取れる。特に目立つ所として、工業から教育 (34.24 点、10.74%) が最も多く、続いて商業から商業 (32.16 点、10.08%)、工業から商業 (25.07 点、7.86%)、教育から教育 (22.75 点、7.13%) となっている。

3.4 機能カテゴリーの近似性

異なる機能カテゴリー間の近似性について調べるために、クラスター分析と多次元尺度構成法を利用する。ここでは、同機能カテゴリー間でのコンバージョン事例は含まず、異なる機能カテゴリーの関係性のみに着目する。

各分析の結果は以下の図 3.2.1 と図 3.2.2 の通りである。

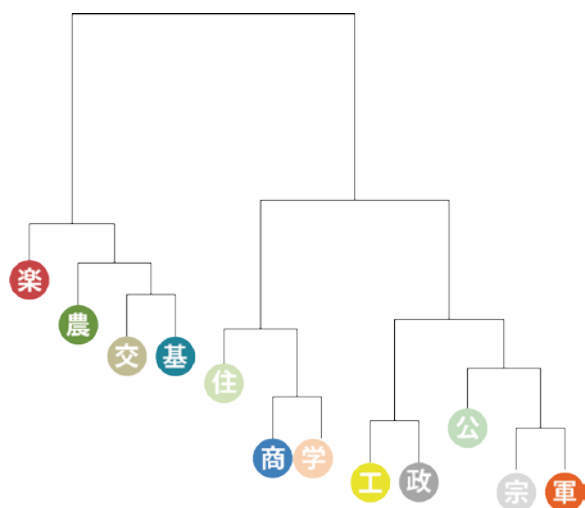


図 3.2.1 クラスター分析結果



図 3.2.2 多次元尺度構成法

クラスター分析の結果から、257 の事例の中で大きく二つに分けることができるという機能カテゴリーの変化の傾向をみることができた。

コンバージョンの傾向として、工業施設がコンバージョンされるケースが多く、商業施設や教育施設になりやすいということが読み取れた。機能カテゴリー間の変化には偏りがあり、クラスター分析でも大きく分かれたように、娯楽・インフラ・交通・農業の機能カテゴリーの施設は、あまりコンバージョンされることがないことが分かった。

4. 総括・今後の展望

建物にコンバージョンを実行するという決定の推進力は、本当に多様である。この研究の結果から、ある特定の機能からもう一つの機能へ変化する傾向があり、特に工業施設から教育施設へ変化する傾向が強いということが示された。工業建築は大きく頑丈で構造様式に関して大きな柔軟性があるため、保存のニーズにおいて工業施設としてだけでなく、他のタイプと比較しても重要な財産として保護すべきだと言える。一方、商業と教育の建築に関するコンバージョンは、前の建物からのコンバージョンによって商業ビルに独特のセールスポイントを与えるきっかけになる場合がある。さらに教育施設では、保存することと再利用することという考えが、よい文化的で教育的な価値を生み出すことができる。

コンバージョン計画の物理的変化の度合いは様々である。しかしながら、この研究からほとんどのコンバージョン計画が実際に保存と変化の間でバランスを取ろうとしていることがわかる。

コンバージョンの成功にはその建物自身やその周りの環境といった多くの側面が関わっている。うまくコンバージョンを最大限に活かすためには様々な人の協力が必要不可欠なのである。